

「ここにいていいね。ほかに何もしなくていい」。今月六日、「おてんとエコひいきの会」として、福島県いわき市の「いわきおてんとSUN企業組合」事務所にてイベントを行う中、ある参加者の方からそんな言葉が出ました。写真。

イベントは、当組合と一緒に、いわき市から持続可能な社会の実現に向けて努力していく「おてんとファミリィ」のお披露目のために企画。コットン畑やものづくり小屋の紹介のほか、太陽光パネル作成やコットンの手紡ぎ糸のかが針編みなどのワークショップなど、盛りだくさんの内容でした。そんな中での冒頭の言葉は、開催側としては肩透かしを食らったような思いも

いわきおてんとSUN企業組合  
松本幸子さん



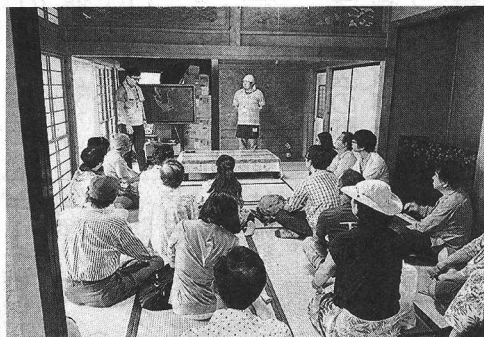
## 東北復興日記

155

# 和やか古民家事務所

しましたが、大事な視点だとも思いました。

事務所は、古民家と言うほど古くはない、田んぼや山に囲まれた平屋の日本家屋です。かしこまるほど威厳もな



く、気も使わずにすむ7LDKの家屋は、実はなかなか足を踏み入れない場所かもしれません。この日、いわき市や首都圏から集まった方々は、乳児から八十代の女性まで年齢は幅広く、職業も会社員、医者、学生など多様でした。

総勢四十人とそれなりの規模のイベントとなりましたが、ゆったりとした雰囲気、ざつと保たれ、共通の話題など無さそうな初対面の方々が打ち解けておしゃべりをしていました。それには、気の置けないわりに非日常な、この素朴な民家が一役も二役も買っていたように思えます。ど

の方もリラックスしてイベントに参加されていました。

田舎出身の私としてはごく普通の、この一軒家と周囲の自然の風景が多くの人々の心を和ませたようでした。一見ごくありふれた資源をどう磨き上げ、どう価値を持たせていくかは、これからもここで暮らし、働いていく私たち次第だとあらためて感じた日でした。

◇  
いわきおてんとSUN企業組合のホームページアドレスは <http://www.iwaki-otentosun.jp/>

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。